

· 日语学习丛书 ·

日本学生 获奖作文选

中文注释



商務印書館

日语学习丛书

日本学生获奖作文选

(中文注释)

选自读卖新闻中小學生作文优秀作品集

揭侠 周敏西 编注

商务印书馆

2006年

图书在版编目(CIP)数据

日本学生获奖作文选/揭侠,周敏西编注. —北京:
商务印书馆,2006

(日语学习丛书)

ISBN 7-100-04869-9

I. 日... II. ①揭... ②周... III. 日语—作
文—中小学—选集 IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2005)第 161252 号

所有权利保留
未经许可,不得以任何方式使用

日语学习丛书

日本学生获奖作文选

(中文注释)

选自读卖新闻中小學生作文优秀作品集

揭侠 周敏西 编注

商务印书馆出版

(北京王府井大街36号 邮政编码100710)

商务印书馆发行

北京市白帆印务有限公司印刷

ISBN 7-100-04869-9/H·1196

2006年12月第1版

开本 787×960 1/32

2006年12月北京第1次印刷

印张 18 $\frac{1}{8}$

定价:25.00元

第 47 回～第 51 回全国小・中学校作文コンクール

(読売新聞社主催、日本漢字能力検定協会、

JR 東日本、JR 東海、JR 西日本協賛)

入賞作品集

©読売新聞社 2005

推荐辞(代序)

《读卖新闻》是日本发行量最大的报纸。自1952年以来,该报每年举办一次以日本初中生和小学生为对象的作文比赛。赛事邀请著名学者和日语语文专家担任评委,并将入选作品编成《作文优秀作品集》出版发行。该作文比赛历史悠久,知名度颇高,其举办次数和参赛者人数堪称日本第一。应该说,《作文优秀作品集》代表了日本中小学生的写作水平。另外,童言可贵,可以说青少年的所思所想能够真实反映社会的一个侧面。因此,从《作文优秀作品集》中挑选适合的文章编辑成册,并对部分难懂的单词和表达方式加以注解,为我国日语专业学生和广大日语学习者乃至对日本社会问题感兴趣的人提供一本读物,应该是一件非常有意义的事情。

本书具有以下三个特点:

(1) 题材多样,具有可读性

《读卖新闻》的作文竞赛既不指定题目,也不限

制字数,任凭中小小学生自由发挥他们的观察、想像、思考和判断能力。有的学生讲述自己与病魔顽强搏斗的经历;有的学生讲述作为子女如何帮助被裁员的父亲渡过难关;有的学生针对社会上的种种现象和事物发表自己的见解;有的学生则描述他们饲养和观察小动物的体验;也有学生讲述他们如何与同学和老师进行心灵的沟通;还有学生批评日本社会的人情淡薄等等。可以说题材种类丰富多样,立意新颖别致,具有较强的可读性。

(2) 语言生动,具有参考性

本书所收作品是日本中小小学生在语文老师指导下完成的,不但语言标准纯正,又在很大程度上保留了中小小学生们的口语特征。从这个意义上讲,本书的文章不仅文字可靠,而且在了解活生生的日语语言方面具有一定的参考价值。

(3) 内容翔实,具有启发性

有人认为,大和民族不善言辞,不习惯与人推心置腹地交谈。与拘谨的成年人相比,日本的中小小学生则显得格外天真无邪,从他们细腻的笔触和率直的表述中,可以窥视到日本人的行为模式、人际关系和处世态度。应该说,本书中的文章在帮助读者加深对日本人与日本文化的理解方面具有一定的启发意义。

推荐辞(代序)

有鉴于此,本书的编注者有信心向广大读者推荐《日本学生获奖作文选》。

揭侠 周敏西

目 录

小学生の部

- 1) 知らんぷりの目 池袋 まり奈 1
- 2) パパのなみだもわすれない 畠山 蛍 7
- 3) おにいちゃんの自てん車
..... 上田 夏央里 23
- 4) しろいけしごむ 荒木 翔太 36
- 5) ぼくのはじめの一步 萱津 秀弘 43
- 6) えがおのおかあさんがすき 石井 翔 60
- 7) 生きかえった金魚 加藤 梓 68
- 8) おとうさんのしごと 坂頂 ひかる 73
- 9) ぞうが教えてくれたこと 林 咲愛 83
- 10) 入ってよかった少年野球
..... 北側 真由佳 88
- 11) 亡くなった祖父への想い
..... 金澤 莉沙 101

日本学生获奖作文选

- 12) マドカドラマスクール
 辻阪 小百合 105
- 13) 通訳 橋本 麦 118
- 14) はげ 岩澤 泉 125
- 15) 鈴虫ののこしたバトン 溝田 樹絵 133
- 16) 大きいおばあちゃんのびょうき
 大沢 成美 149
- 17) 水泳 伊東 温子 164
- 18) お父さんは一年生 荒川 貴一 176
- 19) お兄ちゃんになった ぼく
 相沢 和輝 183
- 20) ぼくは峯の子亭ひさし 牧野 久識 189
- 21) 気持ちのいい春の風 亀田 聖史 203
- 22) セミたちの暑い夏 植松 未知 223
- 23) 母の宝物を見て 北側 真由佳 237
- 24) 僕の中の日本語と英語 奥野 智孝 247
- 25) 温かいその手をにぎりしめ
 大川 光莉 254
- 26) ぼくのダイエット大作戦 佐藤 将 260
- 27) わたしだってがんばるよ
 塚本 真央 281

目 录

中学生の部

- 28) 誇りをもって…………… 岩倉 絵美 296
- 29) 十二才の挑戦…………… 岡島 ののこ 320
- 30) 野間馬…………… 村瀬 玄悟 331
- 31) いのちの根…………… 氏家 麻衣子 345
- 32) 夕焼けの向こう側に…………… 塩崎 さくら 350
- 33) 出会い——さくら色の季節に……………
…………… 境田 恭子 367
- 34) 夏の出会い…………… 穴戸 幸子 378
- 35) あなた——私の母——…………… 高山 紗織 388
- 36) 清掃施設の見学記…………… 割石 紗緒里 404
- 37) バリアフリーの社会を目指して……………
…………… 関根 篤史 413
- 38) 自分発見・夏の旅…………… 真船 翔 441
- 39) 十四歳の日…………… 境田 恭子 447
- 40) 二人のばあちゃん…………… 広松 諒子 456
- 41) 二つの家庭…………… 下村 卓也 464
- 42) 夢…………… 青田 華奈 476
- 43) 短くて長い昼休み時間…………… 大橋 香月 483
- 44) 父の暑い日は、続く…………… 上村 譲一 512
- 45) あーちゃん…………… 佐藤 由貴 523
- 46) 笑い一回につき百円…………… 伊澤 真以佳 532

日本学生获奖作文选

- 47) 今、祖父母から学ぶこと … 三井 清夏 537
- 48) ラスベガス旅行…………… 曾根 泰斗 547
- 49) 生きる…………… 領家 瞳 552
- 50) うそつきイエローと呼ばれて ……………
- …………… 平林 万葉 561

し知らんぷり^①の^め目

茨城県つくば市立竹園東小学校三年

いけぶくろ 池袋 まり^な奈

えき 駅のホームに^と止まった^{でんしゃ}電車のドアがひらきま
した。せみの^{こえ}声がジイジイひびいてきます。せ
みは、^{からだ}体^{じゅう}中をふるわせて^な鳴いているようです。
その^{こえ}声は、^{なつ}夏のおわりを^{おし}教えてくれたのかもし
れません。

そんな^{こと}事を^{かんが}考^ええていると、すぐに^{はっしや}発車の^{あいず}合図
が^な鳴りました。^{でんしゃ}電車のドアがしまるしゅん^{かん}間、
^{ひとり}一人のおじさんがとび^きこんで来たのです。(にら
んだような^{かお}顔をして)、じわりじわりと^②私^{わたし}の^た立
っている^{ほう}方へ^{ちか}近づいて^き来ました。私^{わたし}は^{からだ}体^にに

① 知らんぷり——装作看不见。

② じわりじわりと——一点点挪动状。

ちから はい
力が入りました。こわいような気がして、少し
うし 後ろに下がりました。お母さんとつないだ手に
ちから はい
も力が入ります。しばらくすると、そのおじさ
んは、大きなポケットから小さなおさけのピンを
とり出しました

「うーっ」。^①

というひくい声といっしょに、ピンのふたをぐい
つとはずして、のどを鳴らしていききのみほし
ました。するとつぎのしゅん間、おじさんの手か
らピンとふたがはなれました。シートにすわって
いる人たちの足もとに向けてころがしたのです。
ゴロンゴロンと音をたてて、ピンはゆかをはって
いきました。一しゅん、まわりの人の目は、その
ピンにあつまりました。そして、そのおじさんの
ほうもちらっと見えています。でも、そのすぐ後
には、みんな何もなかったような顔をしていまし
た。電車がゆれるたびに、そのピンだけが、ゴロ

① うーっ——喝酒发出的声音。

知らんぷりの目

ンゴロンと一人^{ひとり}たびをつづけるのです。私^{わたし}は思^{おも}わず、

「お母^{かあ}さん。」

とささやきました。お母^{かあ}さんは、強^{つよ}く私^{わたし}の手^てをにぎり返^{かえ}して、まどの外^{そと}を見^みています。私^{わたし}のお母^{かあ}さんも、まわりの人^{ひと}たちと同^{おな}じです。何^{なに}もおこらなかつたような顔^{かお}をして、だまってけしきを見^みているのです。

すっきりしない気^き持^もちのまま、時^じ間^{かん}だけがすぎ
ていきました。とつぜん、目^めの前^{まえ}のシートのすわ
っていたおばさんが、ムクツと①立^たち上^あがりまし
た。つぎの駅^{えき}でおりるようです。あみだなの
もつを下^おろそうとした時^{とき}、袋^{ふくろ}の中^{なか}からお肉^{にく}や
さいがとび出^だしました。そのおばさんは、あわて
て袋^{ふくろ}につめこみましたが、食^{しょく}ひんのりょうも多^{おほ}
くて、つぎの駅^{えき}ではおりられなかつたのです。

① ムクツト——猛地起身状。

「ああ、ついていない^①。」

と大きなため息^{いき}をつきました。それとどうじに、ガムをゆかに向^むかってペツとはき出^だしたのです。

わたし
私は、

「ええっ。」

と声^{こえ}を出^だしてしまいました。おばさんは、じろっと

わたし かお
私の顔^{かお}をにらみました。わたし からだ
私の体^{からだ}はしゅんと小

さくなって^②、そこに立^たってられないほどドキド

キしました。お母^{かあ}さんをつないだ手^ては、あせでべっ

とりしています。まわりの人^{ひと}たちもその様子^{ようす}を見

ていました。かんですてられたガムが目^めの前^{まえ}に

あるのに、だれも何^{なに}もいいません。ちらっとその

ガムを見^みるだけで、また目^めをとじたり、本^{ほん}をよ

んだりしているのです。わたし かあ
私^{わたし}のお母^{かあ}さんも、まわり

の人^{ひと}たちと同^{おな}じでした。それどころか、

「ほら、電車^{でんしゃ}と同^{おな}じスピードで、雲^{くも}も私^{わたし}たちを

① ついていない——不^ふ走^{そう}運^{うん}。

② 小さくなって——小^こさく^くなる。畏^{おそ}縮^{ちゆう}。

知らんぷりの目

おいかけて来るみたいにかんじるね。」

などととてもものん気そうに言っていました。私
は小さな声で

「みんな知らんぷりしてるね。」

と言いました。お母さんは、何か言いたそう①で
す。でも何も言わずに、私の手をぎゅつとにぎ
るだけでした。

重い空気が、私の心の中にまで入りこみ
ます。たくさんの知らんぷりの目が、にごって見
えます。小さいころからお母さんや先生になら
ったあたり前の事なのに、それをできない大人が
いるなんて信じられません。そして、知らんぷ
りの目も、悲しくなるぐらいゆるせないのです。

家にもどってから、ゆっくり、その時の気持ち
をお母さんにつたえました。お母さんは、

「まり奈の気持ちがとてもよく分かるわ。少し

① 言いたそう——好像想说。

ずつ、お姉さんになる階段を上る時^①、今日
みたいなゆるせない気持ち^{きもち}を味わう^{あじ}と思う^{おも}の。
本当^{ほんとう}は知らんぷり^しせずに、ゆう気を出してその
人^{ひと}たちに言^いえたらいいのだけどね。お母さん^{かあ}
もゆう気を出^だす事^{こと}がこわいの。まり奈の手^てを
にぎりしめて知らんぷり^しすることが、あなたを
まもるせい^{せい}いっぱい^{いっぱい}のことだったの。」

そう話^{はな}すお母さん^{かあ}の目^めは、なみだ^{なみだ}でいっぱい^{いっぱい}でし
た。知らんぷり^しの目^めから、あたたかい目^めにかわっ
ていたのです。今日^{きょう}は知らんぷり^しの事^{こと}を考^{かんが}えさ
せられました。でも、私^{わたし}は、やっぱり知らんぷり^し
の目^めはきれいです。心^{こころ}の中^{なか}までくもってしまい
そうで、悲^{かな}しくなるのです。やさしい心^{こころ}ときら
きらとしたひとみ^{ひとみ}をもって、がんばって歩^{ある}いてい
こうと思^{おも}います。

选自第47届作文比赛

① お姉さんになる階段を上る時——等你到要长成大女孩的时候。